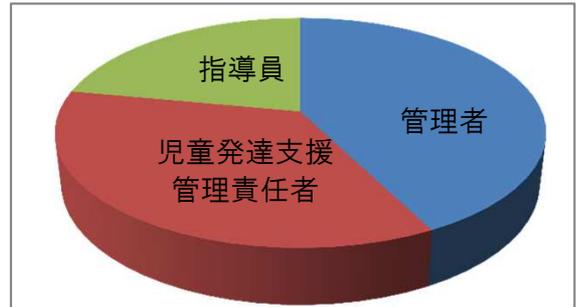
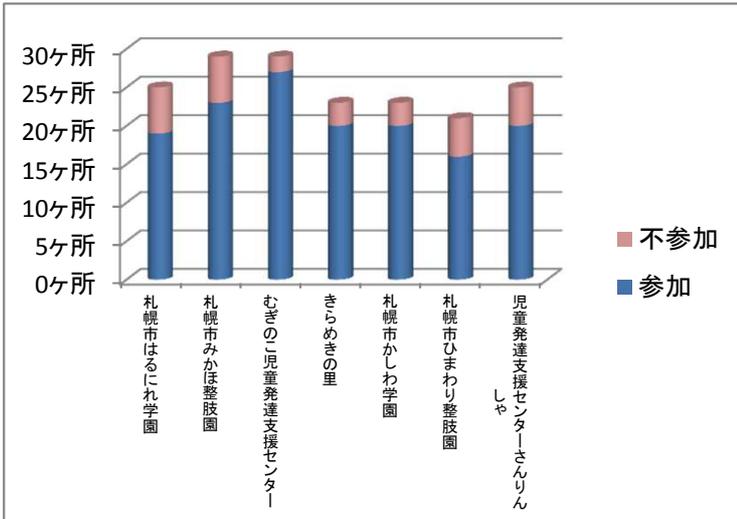


平成25年度第1回児童発達支援センター一研修 集計結果

1 事業所数及び参加者内訳

	対象事業所数	参加事業所数	参加割合	管理者	児童発達支援管理責任者	指導員・保育士	参加者計
札幌市はるにれ学園	25ヶ所	19ヶ所	76.0%	8人	10人	3人	21人
札幌市みかほ整肢園	29ヶ所	23ヶ所	79.3%	18人	13人	6人	37人
むぎのこ児童発達支援センター	29ヶ所	27ヶ所	93.1%	13人	8人	23人	44人
きらめきの里	23ヶ所	20ヶ所	87.0%	6人	17人	1人	24人
札幌市かしわ学園	23ヶ所	20ヶ所	87.0%	8人	7人	11人	26人
札幌市ひまわり整肢園	21ヶ所	16ヶ所	76.2%	10人	7人		17人
児童発達支援センターさんりんしゃ	25ヶ所	20ヶ所	80.0%	22人	9人		31人
計	175ヶ所	145ヶ所	—	85人	71人	44人	200人
		平均	82.6%	42.5%	35.5%	22.0%	



2 グループワーク

	グループ数	1グループ平均	他事業所ファシリテーター	特記事項
札幌市はるにれ学園	4	6.3人	みのり	
札幌市みかほ整肢園	6	7.2人		
むぎのこ児童発達支援センター	6	7.3人		
きらめきの里	5	5.6人		
札幌市かしわ学園	5	6.8人	のび・のび	
札幌市ひまわり整肢園	3	5.7人		
児童発達支援センターさんりんしゃ	4	7.5人	ヴェルテ明日風、ヴェルテ新発寒、アズリ星置	助言者として、相談室こころ・ていね、相談室スキップ参加
平均	4.7	6.6人		

3 各グループから出された主な意見

(1) 主な意見交換内容

- 各事業所の特色、教材について
- 保護者との関わり方について
- 家庭養育上の問題がある児童に係る他機関との連携について
- 幼稚園、保育園、学校との連携について
- 肢体不自由児と発達障がい児を合わせて指導する場合の療育内容について
- 利用人数が多い時の対応について
- 年齢層が幅広い場合の療育内容について
- 高等部卒業後の進路について

(2) 事業所の取組

- 保護者会や先輩ママの話を聞く企画の実施
- 地域の方の理解を得るために講演会の案内を学校や保育園に配布
- 保護者を通じて他機関との連携に繋げる

(3) 事業所の悩み

- 幼稚園、保育園、学校との連携の難しさについて
- 事業所卒業のタイミングについて
- 言葉の遅れの相談機関について
- 保護者の障がい受容について
- 家族に対する支援方法について
- 虐待、ネグレクトのアプローチについて
- 他事業所との連携の取り方について
- 保護者が相談できる場、保護者のメンタルケアについて
- 職員のスキルアップについて
- 支給量超過の意見書について、児童の状況を見極める必要がある
- 人材不足

(4) 地域ネットワークに関する意見

- 地域の幼稚園や保育園とのネットワーク形成
- 関わりが難しい保護者の対応等、他機関から支援を受けられる体制
- 相互にケース紹介できる体制（送迎範囲が広く、療育時間が短くなるため）
- 他の事業所との連携会議
- 児童・家族の経過を一貫して支援する中心的機関が必要
- 待機児童の解消に向けた事業所間や相談支援事業所とのネットワークづくり
- 事業所同士の繋がりをもつため、定期的な話し合いの機会が必要

4 次回研修に向けて検討すべき事項等

(1) 研修内容

- 利用児童の支援会議や連携の取り方を検討する
- 茶話会的な内容で終わらないよう、管理者・指導員向けの内容を充実する

(2) グループワーク

- メンバー構成を考え、話し合うテーマを絞る
- 討議時間を長くする
- 各事業所のノウハウや実践例を共有する
- 発言が少ない出席者への対応

(3) その他

- 開場から開始までの時間の有効活用を検討する
- 参加者へアンケートを配布する
- 児童発達支援センター職員の事業所情報収集について